

幼児期肥満の病的意義

(分担研究：小児期からの成人病予防に関する研究)

山崎公恵

要約：生活習慣病の危険因子として肥満、高血圧、血清脂質異常は重要である。幼児期(4-5歳)における肥満・血圧・血清脂質の状況が小学校4年生(9-10歳)においても影響があるか否かを一般健常児の健診資料から検討した。対象は男子110名、女子98名であった。2回の健診の結果では幼児期肥満であった20名中4年生時肥満であったのは20名中14名、高血圧幼児1名は4年生でも高血圧を示した。血清脂質は4年生で異常値の頻度が高かったが特に動脈硬化指数は幼児期との関連が深かった。

見出し語：肥満、高血圧、高脂血症、健診

【目的】

小児期は生涯にわたる生活習慣の基礎が作られる時期であり、生活習慣病の予防は小児期に始まると言えよう。生活習慣病の危険因子のなかで重要なものとされている肥満・高血圧・血清脂質異常について幼児期の資料とその後の資料との関連を検討し、健康的な生活習慣の確立の重点を幼児期に置く意義の有無をみることを目的とした。

【対象と方法】

保育園における4-5歳時の健診に参加し、その後小学校4年生での健診にも参加した男子110名、女子98名を対象とした。対象は一般健常児であった。健診にあたっては前後2回とも事前にその趣

旨を説明し、保護者の同意を得られた小児に対してのみ実施した。健診項目は身長・体重測定(肥満度判定)、血圧測定、血清脂質検査(総コレステロール:TC、HDLコレステロール:HDL-C、動脈硬化指数:AI)であった。

【結果】

1. 肥満

4-5歳時に肥満と判定されたのは男子では9名、女子では11名であった。小学4年生で肥満と判定されたのは男子では19名(6名が幼児期から継続)、女子では11名(8名が幼児期から継続)であった。

2. 高血圧

幼児期に高血圧と判定されたのは女児1名のみ

横浜新緑病院小児科

Department of Pediatrics, Yokohama Shin Midori Hospital

であった。4年生時には男子1名、女子2名に高血圧が認められたが、このうち1名の女子は幼児期高血圧を呈した児と同一であった。これらの高血圧児には基礎疾患は認められなかった。

3. 血清脂質

①TC：男児で幼児期に異常値を呈したのは6名であり、このうち4名は4年生時にも異常値を呈した。男子で4年生時に異常値を呈したものの総数は18名であった。同様に女子では幼児期に12名が高TC血症であり、内8名は4年生でも高TC血症、4年生の高TC血症の総数は17名であった。

②HDLC：男児で幼児期に異常値を呈したのは6名でこのうち3名は4年生時にも異常値を呈した。男子で4年生時に異常値を呈したものの総数は17名であった。同様に女子では幼児期に5名が低HDL血症であり、内2名は4年生でも低HDL血症、4年生の低HDL血症の総数は10名であった。

③AI：男児で幼児期に異常値を呈したのは10名であり、このうち9名は4年生時にも異常値を呈した。男子で4年生時に異常値を呈したものの総数は26名であった。同様に女子では幼児期に11名が高AI血症であり、内8名は4年生でも高AI血症、4年生の高AI血症の総数は19名であった。

以上の結果を表にまとめた。

【考案】

生活習慣病の危険因子は加齢によって頻度が増す傾向があり、これは小児期にもあてはまる。

今回の結果では幼児期に肥満や高血圧、血清脂質異常といった生活習慣病の危険因子を有するものは小学4年生でも同危険因子を有する率が高かった。生活習慣病の一次予防は幼児期から開始することが望ましいと考えられた。

表 肥満・高血圧・血清脂質異常の頻度

	男子 (総数110)		女子 (総数98)	
	4-5歳時	4年生時	4-5歳時	4年生時
肥満	9 (8.2%) <6 >	19 (17.3%)	11 (11.2%) <8 >	11 (11.2%)
高血圧	0 <0 >	1 (0.9%)	1 (1.0%) <1 >	2 (2.0%)
高TC血症	6 (5.4%) <4 >	18 (16.4%)	12 (12.2%) <8 >	17 (17.3%)
低HDL血症	6 (5.4%) <3 >	17 (15.4%)	5 (5.1%) <2 >	10 (10.2%)
高AI血症	10 (9.1%) <9 >	26 (23.6%)	11 (11.2%) <8 >	19 (19.4%)

< > :4年生時にも異常値であった人数



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:生活習慣病の危険因子として肥満,高血圧,血清脂質異常は重要である.幼児期(4-5歳)における肥満・血圧・血清脂質の状況が小学校4年生(9-10歳)においても影響があるか否かを一般健常児の健診資料から検討した,対象は男子110名,女子98名であった.2回の健診の結果では幼児期肥満であった20名中4年生時肥満であったのは20名中14名,高血圧幼児1名は4年生でも高血圧を示した.血清脂質は4年生で異常値の頻度が高かったが特に動脈硬化指数は幼児期との関連が深かった.